



いぶきやま 伊吹山

再生
目標

昭和 40 年代後半の山地草原（お花畑）の再生を目指す。

DATA

エリア：琵琶湖国定公園
所在地：滋賀県米原市
着手：H20

伊吹山を守る自然再生協議会

概要：劣化しつつある伊吹山の山地草原（お花畑）を再生するため、低木等の伐採や外来種の除草等による植生管理と利用のルールづくりなど関係者が一体となった地域的取り組みを検討。平成 29 年 6 月に、一層の官民学連携と効果的な活動を行うため「伊吹山自然再生協議会」から名称変更を行った。



ルリトラノオ



イブキトラノオ

伊吹山は、滋賀県と岐阜県境にそびえる標高 1,377m の山であり、植物の宝庫として滋賀県内の植物約 2,300 種のうち約 1,300 種が生育しています。山頂付近ではお花畑が形成され、ルリトラノオ、コイブキアザミ等 9 種の固有種と、イブキトラノオ、サンカヨウ等の多くの高山・亜高山性の植物が生育し、国の天然記念物に指定されています。かつては、伊吹山の 3 合目から 8 合目は採草地として利用されてきましたが、生産形態や生活様式の変化等に伴い農業的土地利用が衰退しており、現在では、昭和 40 年に開通したドライブウェイや、山麓からの登山道の利用

により、年間約 30 万人が訪れる観光地となっています。

平成以降、セイヨウタンポポ、牧草類が山頂部一帯及び登山道周辺に侵入し、イブキタンポポ等固有種の減少をはじめ、採草が行われなくなったことによる低木やススキの繁茂等山地草原への影響が生じています。また、近年、シカやイノシシの食害等の影響により植生の衰退が甚大化しています。このため、獣害対策、外来植物や植生遷移対策とあわせ、観光客等による利用の適正化を通じた山地草原の保全・再生に向けた仕組みづくりを進めています。



コイブキアザミ

自然再生の手法

- ▶ 低木林等の伐採、外来種の除草等による山地草原（お花畑）の再生→①②③
- ▶ 利用の適正化とルールづくり→③④
- ▶ 獣害対策→⑤

伊吹山では、民間団体等が参加しササ、ススキ、低木林の伐採、外来種の除去等の取り組みが進められてきました。現在、これらとあわせ、動植物調査による貴重な植物の分布状況の検証、外来種の繁茂を防止するための柵の設置などの検討が進められています。

① 伐採による植生遷移の抑制

かつての採草地に侵入したチシマザサやススキ等について、地域の民間団体が主体となって、刈り取りや草本種子の播種等による山地草原の再生を検討しています。



ササ刈りのイメージ

② セイヨウタンポポ等外来種の除去

登山者や観光客の立ち入りによって繁茂した、セイヨウタンポポなどの外来種の除去等を検討しています。



山頂部に繁茂したセイヨウタンポポの状況

③ 人止め柵の設置

外来植物は、踏み跡に侵入し拡大することから、観光客等利用区域を明確化した上で、外来種の繁茂を防止するための柵の設置などの検討が進められています。

④ 利用のルールづくり

監視パトロールの実施による踏み荒らしや盗掘の防止、利用のルールづくり等を検討しています。

⑤ 獣害防止柵の設置

シカやイノシシの食害等の影響による植生の衰退を防止するための柵の設置などの検討が進められています。